

ふくぶん じょうほうせつけい もんだいえんしゅう
複文の情報設計-問題演習

→ 講義 複文の情報設計 [lecture](#) [english](#) [clause](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/clause/複文の情報設計-講義/>

1 問題 1

日本語: この調査結果から、地方間の差がまだ大きいことが分かる。

1.1 ヒント

主節に置くべきなのは「分かる」よりも、その結果が何を示すかである。

1.2 解答

Correct

This survey shows that regional differences are still large.

1.3 解説

主問題は CLS である。ここで言いたい中心命題は「地方間の差がまだ大きい」であり、その内容を読み手へ届ける主節として This survey shows … を採用するのが自然である。日本語の「この調査結果から」をそのまま前面に置くと、英語では主節が空虚になりやすい。

1.4 よくある誤り

- [CLS]: From this survey, that regional differences are still large is understood.
- [REG]: This survey tells us that … でも意味は通るが、説明文では shows のほうが落ち着いている。

2 問題 2

日本語: 昨日の会議で出た意見を踏まえると、この計画は修正する必要がある。

2.1 ヒント

会議の意見は中心ではなく判断の背景である。

2.2 解答

Correct

In light of the comments made at yesterday's meeting, this plan needs to be revised.

2.3 解説

主節で言いたいことは this plan needs to be revised である。会議の意見はその判断の根拠であるため、In light of … で背景情報へ下げる。このように補助情報を前置詞句へ退避させると、主節の重心が明快になる。

2.4 よくある誤り

- [CLS]: The comments made at yesterday's meeting make this plan needs revision.
- [COL]: make this plan needs revision は動詞の骨格が崩れている。make this plan require revision なら別構文としては成立するが、ここでは直に needs to be revised のほうが明快である。

3 問題 3

日本語: 追加試験が必要であることは、この装置がまだ現場で使われていない理由の一つである。

3.1 ヒント

日本語の「～ことは」をそのまま重い主語にしない。

3.2 解答

Correct

The need for additional tests is one reason this device is not yet used in the field.

3.3 解説

名詞節 that additional tests are necessary をそのまま主語にすると、文頭が重くなり、主節の骨格が読みにくくなる。そこで The need for additional tests と名詞句化し、主節を軽く立ててから、その後理由の内容を続ける。この処理は「情報をどこへ置くか」の調整であり、Ch10 の核心である。

3.4 よくある誤り

- [CLS]: That additional tests are necessary is one reason this device is not yet used in the field.
- [REG]: 文法的には成立するが、ここでは書き言葉として頭が重く、説明文の重心としては不利である。

4 問題 4

日本語: 申請内容に不備がある場合は、担当者から後日連絡がある。

4.1 ヒント

条件は主節ではなく、if節へ下げる。

4.2 解答

Correct

If there is a problem with the application, you will be contacted later by the person in charge.

4.3 解説

ここで中心となるのは「後日連絡がある」であり、不備の有無はその条件にすぎない。したがって、If there is a problem with the application を条件節として先頭に置き、主節は you will be contacted later … と簡潔に立てるのがよい。the person in charge は既出の事務表現として自然である。

4.4 よくある誤り

- [CLS]: A case that there is a problem with the application, the person in charge contacts you later.
- [COL]: contacts to you とすると contact に不要な前置詞を加えてしまう。

5 問題 5

日本語: 以前の調査で指摘された問題を考えると、この結果をそのまま一般化するのは難しい。

5.1 ヒント

一般化が難しいことが結論であり、以前の調査は背景である。

5.2 解答

Correct

Given the problems pointed out in earlier studies, it is difficult to generalize this result as it is.

5.3 解説

主節の中心は it is difficult to generalize this result as it is である。以前の調査における指摘は、その結論を支える背景として Given … に下げる。この it is difficult to … は空虚主語ではあるが、真に空虚なのではなく、不定詞句という重い内容部を後置して主節を安定化する定着構文である。

5.4 よくある誤り

- [CLS]: The problems pointed out in earlier studies make difficult to generalize this result as it is.
- [REG]: we cannot generalize this result でも意味は近いが、ここでは説明文として断定をやや抑えた it is difficult to … のほうが適切である。

6 関連リンク

→ [講義 複文の情報設計](#) [lecture](#) [english](#) [clause](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/clause/複文の情報設計-講義/>

→ [講義 関係詞と節の基本](#) [lecture](#) [english](#) [clause](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/clause/関係詞と節の基本-講義/>

→ [問題演習 複文の安定化](#) [exercise](#) [english](#) [clause](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/clause/複文の安定化-問題演習/>

→ [講義 英語ポータル](#) [lecture](#) [english](#) [overview](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/overview/英語ポータル-講義/>

→ [定石集 誤りタグ体系](#) [reference](#) [english](#) [error-taxonomy](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/error-taxonomy/誤りタグ体系-定石集/>